

学修成果の可視化と、教育の質の向上

学修成果の可視化、 第三者評価を起点としての問題点の発見／対応

人間総合科学大学 人間科学部
矢島孔明



● 本日のセミナーの内容

1. 学修成果の可視化について

- 学生の学修成果を正しく現わすことについての基本的考え

2. 第三者評価での振り返り

- 第三者評価を起点とした、本学の問題点の発見

3. 授業評価アンケートの実際と今後に向けて

- 授業評価アンケートの回収率の変化と対応、そして今後に向けて

1. 学修成果の可視化について

学修評価には 多くの方法がある

何が出来ると思っているのか？

量的

心理測定的
パラダイム

II

- 学生調査

I

- ミニツツペーパー
- リフレクションシート

オルターナティブ・
アセスメント
のパラダイム

質的

- 標準テスト
- 客観テスト

III

直接評価

- パフォーマンス評価
- ポートフォリオ評価
- 真正の評価

IV

何が出来るのか？

図1 学習評価の構図

松下佳代:
パフォーマンス評価による学習の質の評価
京都大学高等教育研究, 18, 75-114, 2012

学修評価：2つのパラダイム

	心理測定学的パラダイム	オルタナティブ・アセスメントのパラダイム
学問的基盤	心理測定学、知能理論	構成主義、状況論
評価目的	アカウントビリティ 一定の質保証	教育改善・指導 学生のさらなる成長
評価対象	集団	個人
評価項目	分割可能性	複合性
評価機能	総括的評価	形成的評価
評価場面	脱文脈性 統制された条件	文脈性 シミュレーション、真正の文脈
評価基準	客観性	間主観性
評価データ	量的データ	質的データ
評価主体	評価専門家、政策担当者	実践者自身
評価法	客観テスト(標準テスト)、 学生調査 など	真正の評価、ポートフォリオ評価、 パフォーマンス評価 など

：(松下, 2012)

パフォーマンス評価

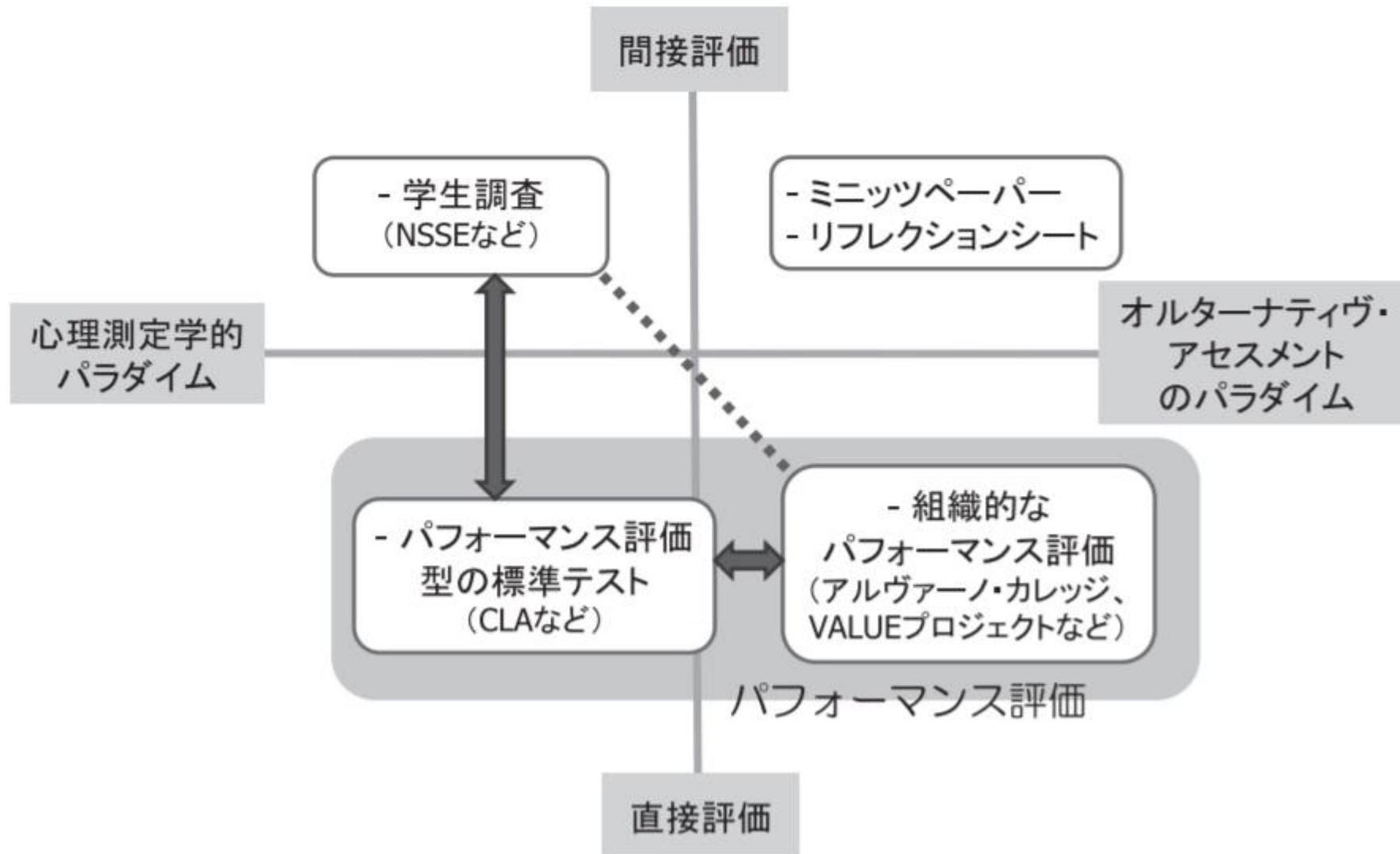


図4 パフォーマンス評価内部でのパラダイムの対立

(松下, 2012)

学習評価には 多くの方法がある

何が出来ると思っているのか？

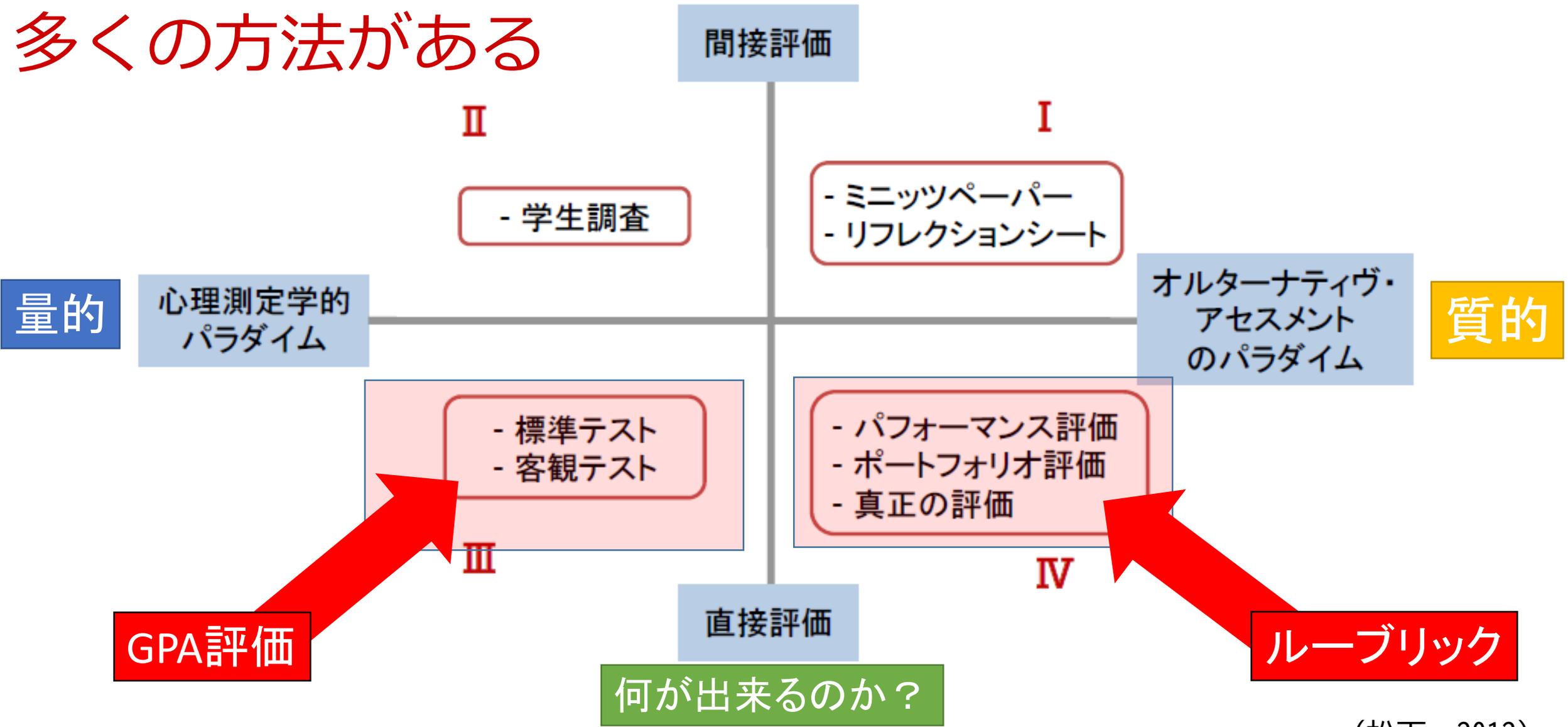


図1 学習評価の構図

(松下, 2012)

評価主体/時期	入学前・入学時 (アドミッション・ポリシー)	在学中 (カリキュラム・ポリシー)	卒業時・卒業後 (ディプロマ・ポリシー)
機 関 レ ベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験問題・入試結果 ・入学前教育* ・新入生アンケート* 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活、学修行動・成果実態調査* ・学期・累積GPA ・DP学修成果ルーブリック ・単位修得状況 ・成績評価（GP）分布 ・留年者数・留年率 ・退学者数・退学率 ・休学者数・休学率 ・資格取得状況 ・学生インタビュー* 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業者数・卒業率 ・累積GPA ・DP学修成果ルーブリック ・就職状況・就職率* ・資格取得・国家試験合格実績 ・卒業生アンケート ・既卒者アンケート* ・就職先企業アンケート* ・産業界・自治体ヒアリング*
教 育 課 程 レ ベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験問題・入試結果 ・入学前教育* ・初年次教育* 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期・累積GPA ・DP学修成果ルーブリック ・単位修得状況 ・成績評価（GP）分布 ・出席状況 ・履修系統図* ・学内模試・外部アセスメント* ・授業評価アンケート ・授業改善提案書 ・個人面談表* ・就職活動調査* ・留年者数・留年率 ・退学者数・退学率 ・休学者数・休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・累積GPA ・DP学修成果ルーブリック ・卒業研究・総合演習等 ・資格取得・国家試験合格実績 ・就職状況・就職率* ・卒業生アンケート
授 業 科 目 レ ベル		<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得状況 ・科目合格率 ・成績評価（GP）分布 ・出席状況 ・授業評価アンケート ・授業改善提案書 	



GPAとは？

Grade Point Average

GPAとは、授業科目ごとの成績に対して、4.0～0.0のグレードポイントを付与して、1単位あたりの平均を算出したものです。学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の多くの大学で使用されています。

GPA 計算式

学期 GPA の計算式

$$\text{学期 GPA} = \frac{\{ (\text{当該学期の評価 S の単位数合計} \times 4) + (\text{当該学期の評価 A の単位数合計} \times 3) + (\text{当該学期の評価 B の単位数合計} \times 2) + (\text{当該学期の評価 C の単位数合計} \times 1) \}}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

累積 GPA の計算式

$$\text{累積 GPA} = \frac{\{ (\text{全在学期間の評価 S の単位数合計} \times 4) + (\text{全在学期間の評価 A の単位数合計} \times 3) + (\text{全在学期間の評価 B の単位数合計} \times 2) + (\text{全在学期間の評価 C の単位数合計} \times 1) \}}{\text{全在学期間の総履修登録単位数}}$$

1 どのように提示されますか？

配布される「成績表」や「面談シート」に、学期 GPA（学期内で履修した科目の GPA）と累積 GPA（本大学に入学した後すべて取得した科目についての GPA）の値が記載されます。

2 どのように使われますか？

人間総合科学大学 学修達成度自己評価 DP 対応ルーブリック

1. 趣旨と概要

このルーブリックは、本学が定める学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）に対応する①大学、②学部、③学科の項目に沿って、学生自身が本学における学修成果の達成度を振り返ることで、自己評価、自己点検するためのツールです。

4年間の本学での学びによって、学生がどのような知識やスキル、態度や姿勢を修得することができるのかを示すとともに、成績評価通知などのタイミングで担任の先生とともに学生自身が振り返ります。学生は、自身の入学から卒業までの成長度を客観的な情報を基に、自己評価する機会を繰り返してもつこととなります。

入学時 卒業時

主に評価するDP			項目	内容	基準			
					1	2	3	4
*	*	*	人間および心身相関の科学的・総合的理解	人間と社会の諸側面について幅広い知識を持ち、健康が心理的・社会的・文化的側面と密接に関わることを理解している。	□「心身相関」を基本とし、人間に関する科学を学際的に学び、総合的に人間を理解することの重要性を理解している。自身の体験をもとに、日常生活における心身相関の例をあげることができる。	□一人一人がストレス社会を力強く生きていくことに関連する、「心身相関」の仕組み、および、他者や環境との関係性を理解している。	□生命進化及び人類進化についての知識を学び、生物としてのヒトの心身の健康を進化的観点から考えることができる。	□人間の歴史を「文化・社会」の視点を通して学び、健康と社会的環境との関連を理解している。
*			knowledge for well-being の理解と実践	現実社会を「よりよく生きる」ために、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習としての態度、豊かな人間性が必要であることを理解し、実践している。	□発達・ライフサイクルに伴う心身の特徴を学び、各時期の特徴を活かして生涯学び、「よりよく生きる」知恵について考える必要性を理解している。	□人間に備わる共感能力について、その発達も併せて、科学的に理解できることを知り、「よりよく生きる」こととの関連を理解している。	□進化的視点を含む新しいストレスの考え方を学び、現代社会に生きる人間について総合的に洞察する努力を実践している。	□人間らしさを育んできた「文化・社会」の統合理解に必要な基本的知識を学び、未来を切り開く創造力を高めるために活用する努力を実践している。健康や生きやすさについて、コミュニティとの関連を理解する。
*	*		自立と共生の理解と実践	社会における「自立」と他者との「共生」には、社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質が必要であることを理解し、実践している。	□「心身相関」を基本とし人間を総合的に理解する学びをもとに、健康問題について自分の頭で考えることが、社会における「自立」に必要なことを理解している。	□他者との「共生」に必要な、他者への思いやり、コミュニケーション力の基盤の一つに、乳幼児が周囲のおとなとの相互作用により共感システムを発達させることがあることを理解している。	□人類進化の過程における個人と社会の関わりについての学びをもとに、社会における共生に必要な社会的責任感について自ら考えることを実践している。	□「文化・社会」の統合理解をめざした学びをもとに、異文化への理解を深めること、自らの可能性を最大限に発揮するための努力を実践している。



所属	学年	学籍番号	氏名
心身健康科学科	4	99999999	人間太郎

A. 大学（機関レベル）

A-I. 人間および心身相関の科学的・総合的理解

A. 大学（機関レベル）

A-I. 人間および心身相関の科学的・総合的理解

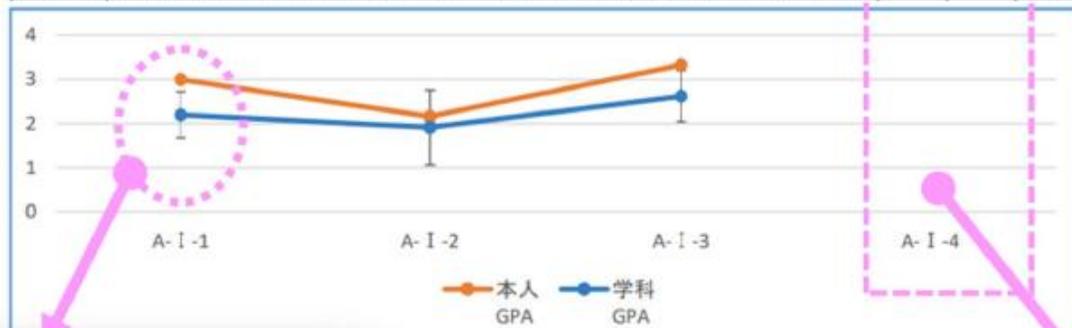
項目

基準

自分のGPA

学年のGPA
平均値±SD

基準	本人 GPA	学科 GPA	自己評価
A-I-1 人間を、身体的・心理的・社会的側面から多面的に捉えることの重要性を理解できる	3.00	2.20	2
A-I-2 人間を、身体的・心理的・社会的側面から多面的に理解できる	2.16	1.91	2
A-I-3 人間を、身体的・心理的・社会的・文化的側面から多面的に理解できる	3.33	2.62	2
A-I-4 人間を、身体的・心理的・社会的・文化的側面から多面的および総合的に理解できる			2



直近の
自己評価結果

- すべて修得できている --- 4
- かなり修得できている --- 3
- 少し修得できている --- 2
- 全く修得できていない --- 1

空欄は
未履修

e for well-being の理解と実践

基準	本人 GPA	学科 GPA	自己評価
職を活かして生涯学び、「よりよく生きる」知恵について考える必要性を理解している	3.50	2.77	3
科学的に理解できることを知り、「よりよく生きる」こととの関連を理解している	3.66	2.68	2
現代社会に生きる人間について総合的に洞察する努力を実践している	3.66	2.68	2
未来の知識を学び、未来を切り開く創造力を高めるために活用する努力を実践している	4.00	2.65	2

2. 第三者評価とその振り返り

● 第三者評価の受審

『公益財団法人日本高等教育評価機構』
2022年度大学機関別認証評価を受審

2023年3月14日、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていることを「認定」されました。



● 第三者評価での本学の問題点

〈参考意見〉 ○授業改善のための学生による「**授業評価アンケート**」は、回収率が低く、実施効果が小さいため、回収率を高めるよう検討が望まれる。

〈優れた点〉 ○心身健康科学という新たな学問領域を構築し、それを基盤にした教養教育を導入し、総合的・学際的な人間理解を深めるとともに保健・医療・食・健康分野の専門職を養成していることは、高く評価できる。

〈優れた点〉 ○通信制大学として開学した背景から ICT（情報通信技術）環境整備にいち早く取り組み、1 人間総合科学大学 全学的に学修プラットフォーム「**UHAS@Myキャンパス**」を導入してオンラインによる学修支援の充実を図っていることは評価できる。

〈優れた点〉 ○「**FD・SD推進委員会**」が研修会参加報告や授業参観報告等を学内に向けてニューズレターとして発行し、FD及びSDの活性化を推進していることは評価できる。

● なぜ授業評価アンケートの回収率は低いのか？

授業評価アンケートの価値の共通の認識不足

教員レベル

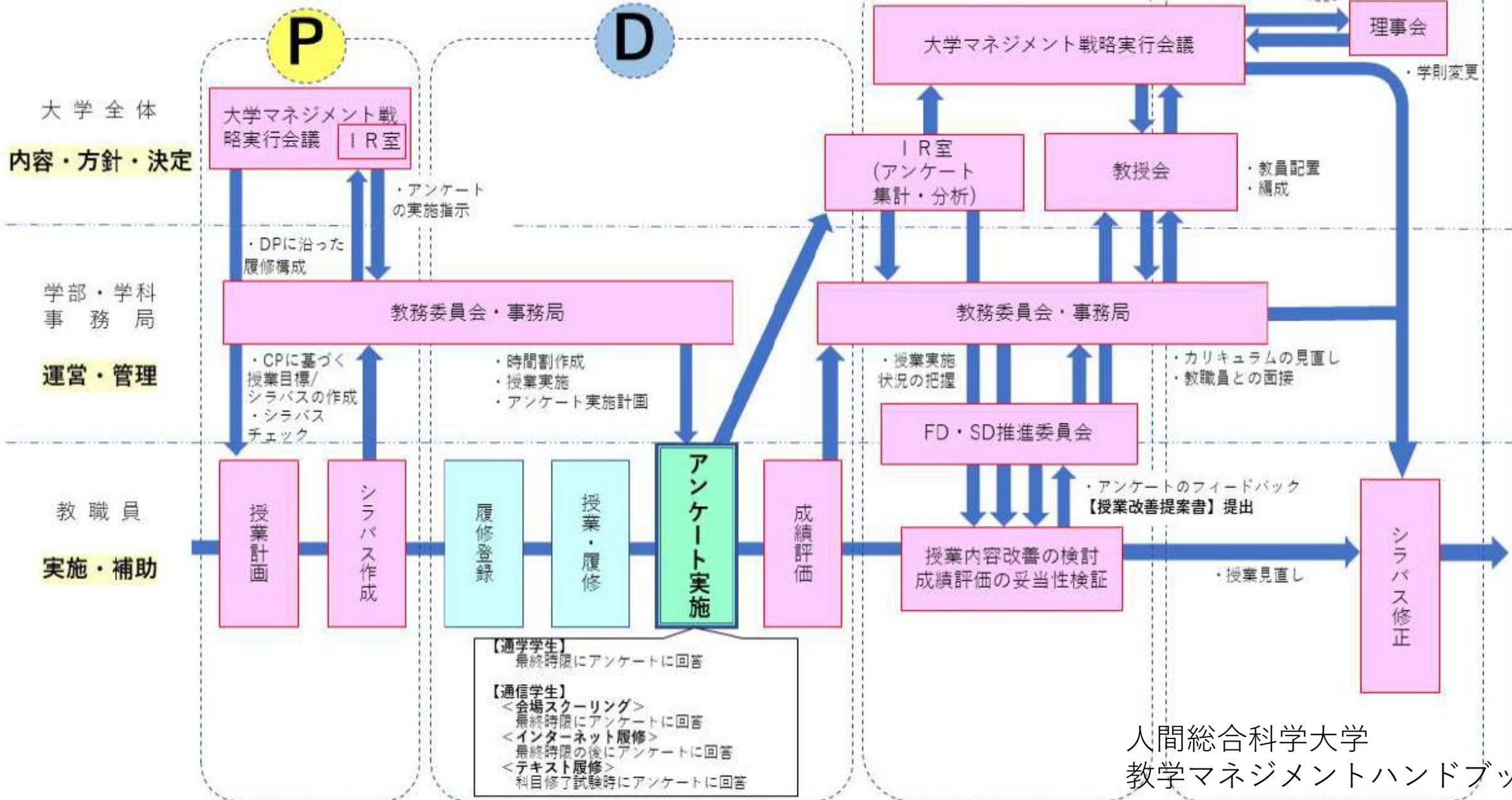
職員レベル

学生レベル

アンケートは何のために実施しているのか？

実施して何がよくなっていくのか？

授業評価アンケートによるPDCA



● なぜ授業評価アンケートの回収率は低いのか？

授業評価アンケートにご協力ください



- ◆みなさんをお願いしている「授業評価アンケート」は、今後の授業改善につながる重要な資料となります。履修されているすべてのみなさんのご協力をお願いいたします。
- ◆授業評価アンケートは、「記名式」となります。これまで無記名式(回答者の名前を書かない)でしたが、今回より記名式(回答者の名前を書く)に変更します。回答内容について「誰が回答したのか」を科目の先生に知られることはありません。また、回答内容が成績評価に影響することは全くありません。安心して、お答えください。
- ◆授業評価アンケートの結果は、これまでの①の方法に加え、3つの方法にて、みなさんへお伝えします。
 - ①科目の先生より、初回授業等で、授業改善の説明があります。
 - ②次年度以降のシラバスに「授業改善のポイント」の欄が追加され、科目ごとの改善点が記載されます。
 - ③大学より、「授業アンケートのまとめ記事」が掲載されている「News Letter」を全学生のみなさんへ配布します。

● なぜ授業評価アンケートの回収率は低いのか？

予告

授業評価アンケート

実施週間のお知らせ

実施期間

★ 8コマ授業：最終回

★ 15コマ授業

2024.7.16～7.29

本学においては、授業の改善の基礎資料として授業評価アンケートを実施しています。このアンケートは、学修環境や学修支援の改善等に活用されます。



「授業評価アンケート 実施週間」
として、原則、授業内において実施します。
学生のみなさんは、期間中、全員、アンケート
へのご協力をお願いします！



人間総合科学大学事務局

最終コマまたは試験中に、
教職員が学生にアンケートに答えて
もらう活動の徹底化

3. 授業評価アンケートの実際 と今後に向けて

● 授業評価アンケートの改善

授業評価アンケートの改善

通学生 70%台→95%前後
通信制 10%付近→15%付近

通信制: システム的な改善が必要

今年度アンケート回収システムを改善

● 授業評価アンケート質問内容の検討



資料No.5-5 授業評価アンケート(学部)

【2024年度 学部授業評価アンケート 質問項目】

共通選択肢：とてもそう思う、そう思う、どちらともいえない、そう思わない、とてもそう思わない

全学で共通化した 質問内容で実施

教員の授業改善だけでなく、
大学全体の学修評価(学生の
状態の把握)の一環として情
報分析可能

大学共通必須項目

教員	1	教員は、シラバスに沿って授業を行いましたか。
	2	教員の説明や教材は、本科目の理解を深めることに役立ちましたか。
	3	毎回、授業の復習を行いましたか。
	4	教員は、学生の質問や相談に対し適切に対応しましたか。 (5選択肢 + 「質問や相談をしていない」の選択肢を設ける)
学生	1	あなたは、本科目について、予習・復習など自主学修を行いましたか。
	2	あなたは、本科目の授業スケジュールを把握し、計画的に学修を進めることができましたか。
	3	あなたは、授業において、真剣に意欲的な態度で臨みましたか。
総合	1	本科目を受講して、総合的に満足しましたか。
大学のポリシー	1	教員は、大学卒業までに必要な要件(ディプロマ・ポリシー)に対して、本科目の位置づけを伝えようとしたか。
	2	あなたは、大学卒業までに必要な要件(ディプロマ・ポリシー)に対して、本科目の位置づけを理解することに努めましたか。
記述部分	1	本科目で、良かったと思う点を書いてください。
	2	本科目で、改善したらよいと思う点を書いてください。

各学科独自 ※ 2問程度

1	
2	